

## 有隣寺住職・節談説教師 祖父江 佳乃さん

「覚悟を決めたら可能性が広がる」

困難のたびに覚悟をし続け、女性初の節談説教住職になるまで

# なでしこ力



祖父江 佳乃さん

節談（ふしだん）説教の名手だった祖父江省念の孫として生まれた祖父江佳乃さん。現在は有隣寺住職として、女性初の節談説教師として活躍中だ。「教えを分かりやすく」と語る説教を多くの人が聞きに来る。出遭い、別れ、行縁に導かれ、周囲から見れば「過酷な修行」にさえ見える人生を歩んできたからこそ、説教の言葉それぞれに説得力があった。

真宗大谷派徳風山有隣寺（名古屋市北区）の住職として活躍する祖父江さん。境内にある宗教法人立の保育園「徳風幼稚園」の園長でもある。住職としての祖父江さんの毎日だけでも多忙を極める。朝のお勤めからはじまり、数百軒の檀家の月参り、法事、葬儀などを住職として行う。取材日は法事が行われたが、祖父江さんのお経を読む声は本堂に広く響きわたり、迫力を感じさせ参拝者の心を動かしていた。

全国から請われて年に約50回の節談説教にも出かけ、幼稚園の園長としても忙しい。一年を通して休日はほぼ無く、住職就任後、旅行経験はほとんど無い。お寺のため、門徒のため日々邁進する様子は広く知られるようになり、1000人の住職を取材した興山社から発刊された「日本のものすごい10人の住職」には、祖父江さんもそのうちの一人として掲載されている。

祖父江さんは、女性からの目線に書き換えて分かりやすく教えを説くため、聞く人の半分以上が女性だ。聞く側に合った台本を時間をかけて作り、前日は準備と緊張で眠れないこともある。

説教では、同じ言葉を2回使わず、いろいろ

な言葉で表現し、卑下してものを言わないこと、否定的な言葉を使わないことなどを心掛ける。身を削るようにして作られ、空気を浄化するような声での説教は多くの人を引き付ける。

しかし祖父江さんの説教の魅力は、単に膨大な努力だけから来るものではない。人の何倍もの別れと出遇いの経験、大きな導きが支えている。

祖父の省念師は、戦前に衰退した節談説教を戦後も唯一、貫き通した説教師だった。名人として讃えられる説教は、小沢昭一氏も感銘を受け、仲良しの永六輔さんと2人でお寺に来ていた。やがて全国に名が知られることになり、昭和40年代には説教ブームが起きたほどだ。

祖父江さんは祖父の省念師が手元に置いて、可愛がられて育った。「膝の上で育ち、祖父の説教を生まれたときから聞いて育ったようなものでした。読書を勧められ本好きになり、言葉がいっぱい家で育ったのです」。

三姉妹の長女で「お寺以外の生活を全く分からないで育ったから」と、愛知淑徳大学4年の時に親に内緒で就職活動を始め、ラジオ局の